



防府の春風楼

三田尻塩田釜屋煙突

岩国練武場

国の登録文化財に

県内計70件に

国の文化審議会(宮田亮平会長)は20日、新たに166件を登録有形文化財として登録するよう文部科学大臣に答申した。山口県内からは、岩国市の「岩国練武場」、防府市の「三田尻塩田旧越中屋釜屋煙突」と「春風楼」の登録が答申された。年度内に官報で公示され、正式登録となる。

(3面に関係記事)

財形文化
市の「春
防府の「春
登録有形文
の登録有形

岩国練武場は、木造平屋建てで建築面積は約320平方㊦。陸軍元帥、長谷川好道が死去した翌年の1924年、生誕地の岩国市に記念道場として建てられた。1927年の落成後、現在

まで地域に根ざした剣道場として使用されている。

三田尻塩田旧越中屋釜屋煙突は、三田尻塩田記念産業公園内に建つ石造りの煙突で、高さ約13㊦、基部直径は2・4㊦。釜屋とは、塩田で作られた濃度の高い塩水をたいて塩を得るための施設。煙突外壁のれんが状の切り石には、鉄釜の導入で不用になった石釜の石が使われている。

春風楼は1873年、防府天満宮境内に建てられ、瓦ぶき屋根の木造2階建てで建築面積は約210平方㊦。楼閣風で独特な形式の神社建築で、防府天満宮で神事が行われる際に大勢の参拝客がこもるために使用したことから「参籠所」などとも呼ばれている。

県教委によると、今回で県内の登録有形文化財(建造物)は70件になる。